

Eat Well, Live Well.
AJINOMOTO®

第137期 株主通信

中間

2014年4月1日～2014年9月30日

社長インタビュー

「確かなグローバル・スペシャリティ・カンパニー」を目指して
グローバル成長に向けた取り組み …… P1

特集

「うま味」は世界へ
第4回 ベトナムにおける事業展開 …… P9



味の素株式会社



株主の皆様には、日頃よりひとかたならぬご支援を賜りまして、誠にありがとうございます。

取締役社長 最高経営責任者

伊藤 雅俊

「確かなグローバル・ス グローバル成長に向け

Q 2014-2016中期経営計画の基本方針である「成長ドライバーの展開」において、「グローバル成長」を目指していますが、改めてその内容を聞かせてください。

伊藤 当社は、「確かなグローバル・スペシャリティ・カンパニー」を目指しており、海外コンシューマーフーズ事業においては、独自の先端技術を活かし顧客や展開国への適合を徹底することでおいしさNo.1を実現し、グローバル成長を推進しています。

東南アジア、南米などの既存展開市場、さらにアフリカや中東といった新市場にはうま味調味料をはじめ、風味調味料、メニュー用調味料等、それぞれの国や地域の味覚に合わせた調味料・加工食品の事業化を推進する一方、欧州、北米では、日本発のユニークな価値を持つ製品群、特に冷凍食品・加工食品を軸に、現地に適合した日本食・アジア食^{*}に特化した事業を展開しています。

^{*}アジア食：中国食、韓国食、タイ食、インド食を含む。

ペシャリティ・カンパニー」を目指して た取り組み

Q 米国の冷凍食品会社を買収するとの発表がありました。

伊藤 米国のウィンザー・クオリティ・ホールディングス社（以下、「ウィンザー社」）を買収することについて2014年9月に持分売買契約を締結し、同年11月にウィンザー社の全持分を取得しました。買収金額は約870億円となり、当社としては過去最高額の見込買収案件となります。

当社の北米冷凍食品事業における強みである、高い技術に裏打ちされた日本発のヘルシーで高品質かつおいしい製品群に加え、ウィンザー社の米国消費者に精通したマーケティング力、全米に広がる流通ネットワークと営業力、全米をカバーする生産拠点を獲得することで成長を加速させます。

Q なぜ今、北米なのですか？

伊藤 米国の冷凍食品市場は約4兆円の巨大な市場であり、安定的な成長を続けています。その中でも日本食・アジア食市場やヘルシー・高品質といった差別化された市場は近年成長著しいカテゴリーとなっています。

当社は、北米においては2000年に本格的に冷凍食品事業を立ち上げ、2014年6月には東洋水産株式会社と北米における冷凍麺生産会社の設立に向け合併事業契約を締結し、冷凍食品事業を強化してきました。現地に適合した高品質なギョーザ・麺・米飯等をメインに、現在では売上高約135億円に拡大しています。

今回の買収により、全米の小売チャネルへの販売を加速し、併せて外食チャネルでの販売基盤強化を図り、日本食・アジア食における圧倒的No.1を目指します。

2016年度には冷凍食品事業全体の売上高1,900億円、内、日本1,000億円、海外900億円を目指してまいります。



ウィンザー社商品群

Q 海外コア展開国として位置づけている、タイ、インドネシア、フィリピン、ベトナム、ブラジルの5カ国についてはいかがですか？

伊藤 この5カ国については、各国の売上高を2020年度までに2012年度比の2~3倍に増やす方針です。そのためには事業開発のスピードを上げる必要があります。現地法人の判断できる権限を大幅に引き上げていきます。

Q 国内市場をどのように捉えていますか？

伊藤 もちろん、国内市場も当社にとっては成長市場です。人口減少で食数は減っても、世帯人数の減少、女性の社会での活躍など生活スタイルの変化に合った商品の開発により、金額面での成長は可能です。個別化、多様化する顧客向けに価値創造をし続け、安定成長を目指します。



Q 今後のグローバル展開について教えてください。

伊藤 上記で述べたとおり、それぞれの国や地域で戦略を分けて更なる展開を図ります。成長のための投資枠の上限は約3,000億円としており、ウィンザー社の買収規模だけではまだ投資余力が残ります。今後も優良案件があれば、技術を持つ企業やグローバル化につながる企業の買収を積極的に進めてまいります。



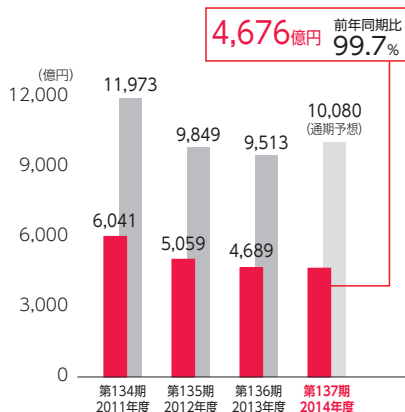
■ 主要連結財務データ

	第134期 2011年度	第135期 2012年度	第136期 2013年度	第137期(当期)2Q 2014年度 第2四半期連結累計期間
売上高	11,973 億円	9,849 億円	9,513 億円	4,676 億円
営業利益	725 億円	712 億円	618 億円	285 億円
経常利益	759 億円	771 億円	688 億円	319 億円
当期・四半期純利益	417 億円	483 億円	421 億円	207 億円
1株当たり当期・四半期純利益	61.27 円	74.35 円	68.67 円	35.04 円
総資産	10,970 億円	10,917 億円	10,931 億円	11,117 億円
純資産	6,501 億円	6,917 億円	6,555 億円	6,890 億円
1株当たり純資産	894.58 円	1,004.38 円	1,002.29 円	1,054.53 円
年間配当・中間配当	16 円	18 円	20 円	10 円

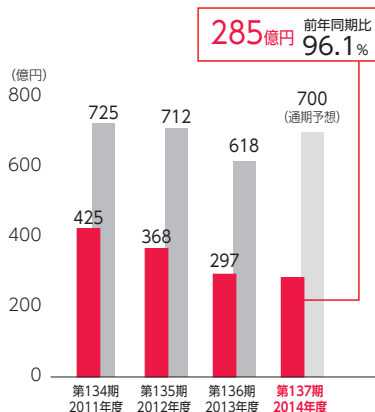
■ 連結財務ハイライト

■ 第2四半期 ■ 通期

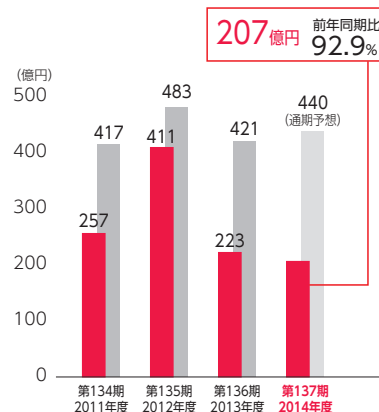
● 売上高



● 営業利益



● 四半期(当期)純利益



* 予想数値は、11月6日決算発表時で入手可能な情報に基づくものであり、実際の業績は、事業環境の変動等により、予想と異なることがあります。

* 第136期より、油脂事業およびコーヒー事業等の総売先元取引の売上高の計上方法を変更しており、第135期の売上高については遡及処理を行っております。

* 当期より、販促値引等を売上計上時に売上高から控除して計上する会計方針に変更しており、第136期の数値は、変更後の会計方針に基づいて遡及処理を行っております。

国内食品

売上高

1,472 億円

(30億円 増)

(前年同期比 102.1%)



営業利益

101 億円

(12億円 減)

(前年同期比 88.9%)



調味料・加工食品は、家庭用商品の販売が前年同期並みであったものの、業務用の機能型食品等の伸長により、増収となりました。冷凍食品は、北米において米飯および焼きそば等の麺類の販売が大幅に増加し、増収となりました。

販売費の増加や冷凍食品の原材料価格高騰に伴うコスト増等により、減益となりました。



海外食品

売上高

1,531 億円

(90億円 増)

(前年同期比 106.3%)



営業利益

164 億円

(36億円 増)

(前年同期比 128.3%)



コンシューマーフーズは、為替の影響はあったものの、アジアにおけるうま味調味料「味の素®」、アジアや中南米における風味調味料の販売が好調で、増収となりました。加工用うま味調味料は、国内の食品加工業向け「味の素®」の販売数量が増加したものの、核酸の販売単価下落等の影響により、前年同期並みの売上げとなりました。

コンシューマーフーズの増収により、大幅な増益となりました。



バイオ・ファイン

売上高

1,082 億円

(33億円 減)
(前年同期比 97.0%)



営業利益

25 億円

(13億円 減)
(前年同期比 66.3%)



飼料用アミノ酸は、リジンの販売単価が下落し、販売数量が減少したことにより、大幅な減収となりました。

医薬用・食品用アミノ酸、製薬カスタムサービス、甘味料は増収となりましたが、化成品は減収となりました。

飼料用アミノ酸の販売価格の下落の影響を受けて、大幅な減益となりました。



医薬

売上高

187 億円

(91億円 減)
(前年同期比 67.4%)



営業利益

2 億円

(12億円 減)
(前年同期比 15.4%)



自社販売品は、2013年7月1日から持分法適用会社であるエイワイファーマ株式会社に輸液・透析事業を移管したことで当該事業の製品の売上げがなくなったことや薬価改定および後発品の影響もあり、大幅な減収となりました。

提携販売品は、競合品の影響により、骨粗鬆症治療剤「アクトネル[®]」等のリセドロナート類およびカルシウム拮抗降圧剤「アテレック[®]」の販売が大幅に減少し、大幅な減収となりました。

自社販売品および提携販売品の減収の影響を受け、減益となりました。



その他

売上高

401 億円

(8億円 減)
(前年同期比 97.8%)



営業利益

△ **7** 億円

(9億円 減)
(前年同期比 -)



物流事業の減収等により、減収となりました。
健康ケア事業は増益となったものの、物流事業等の減益により、減益となりました。

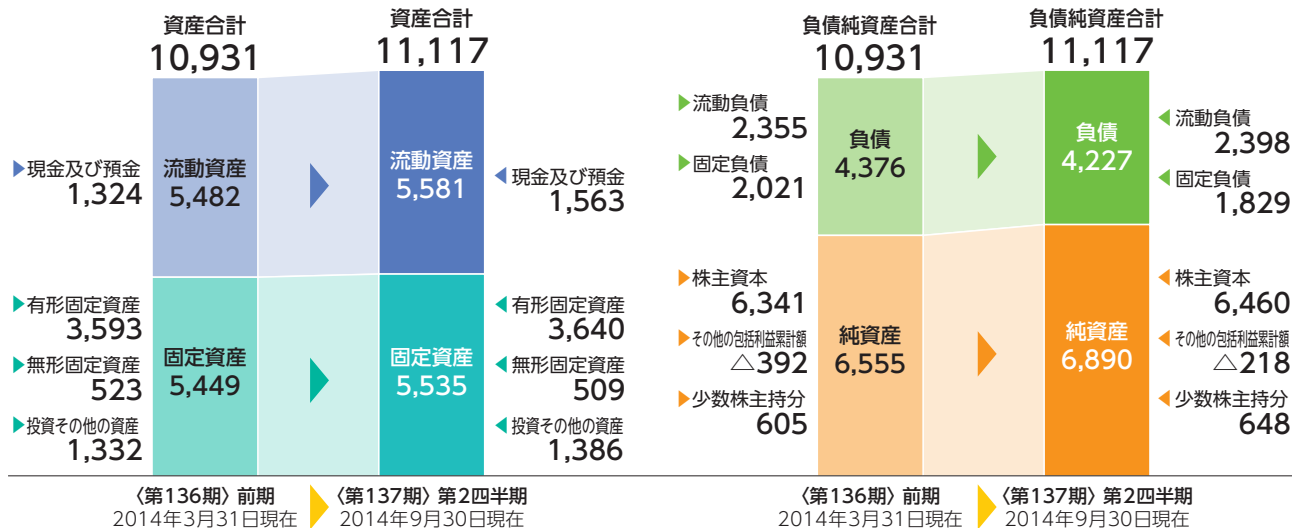
*当期より、販促値引等を売上計上時に売上高から控除して計上する会計方針に変更しており、第136期の数値は、変更後の会計方針に基づいて遡及処理を行っております。

連結決算概要

連結貸借対照表の概要

(単位：億円)

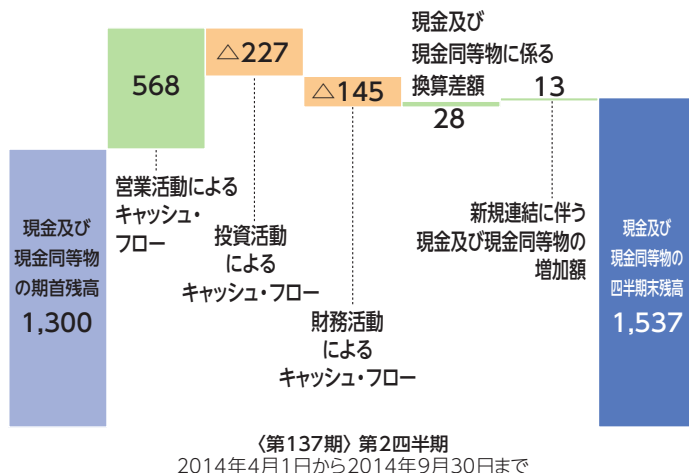
(注)△印は、マイナスを示しています。



連結キャッシュ・フロー計算書の概要

(単位：億円)

(注)△印は、マイナスを示しています。



● 営業活動によるキャッシュ・フロー

568億円の収入(前年同期は195億円の収入)となりました。税金等調整前四半期純利益が314億円、減価償却費が211億円であり、売上債権等の運転資本が収入となったこと等によるものです。

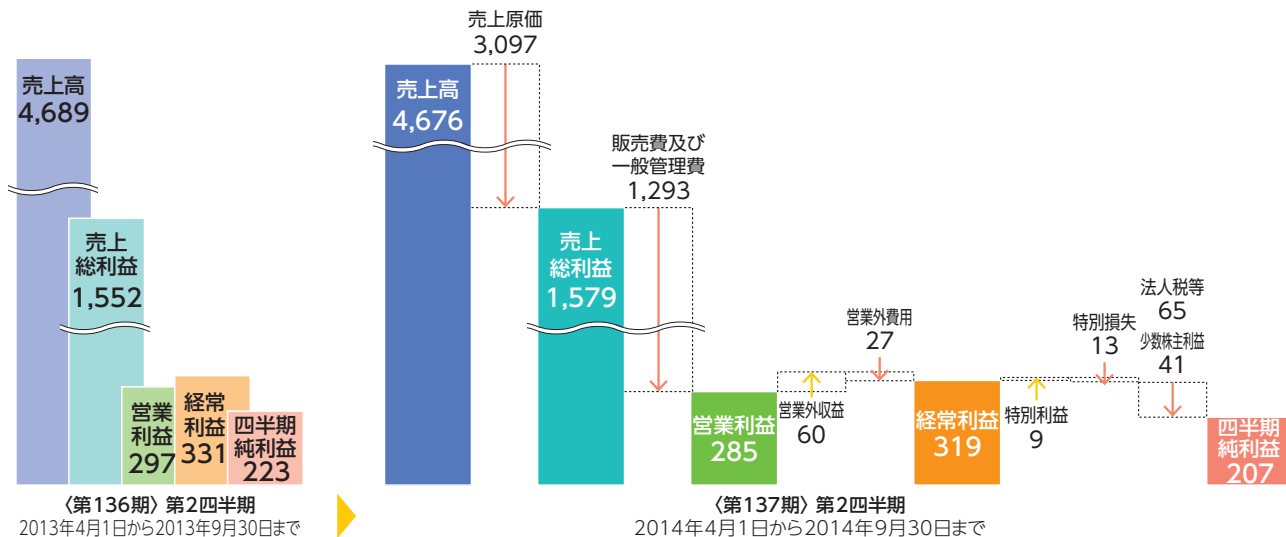
● 投資活動によるキャッシュ・フロー

有形固定資産の取得等により227億円の支出(前年同期は374億円の支出)となりました。

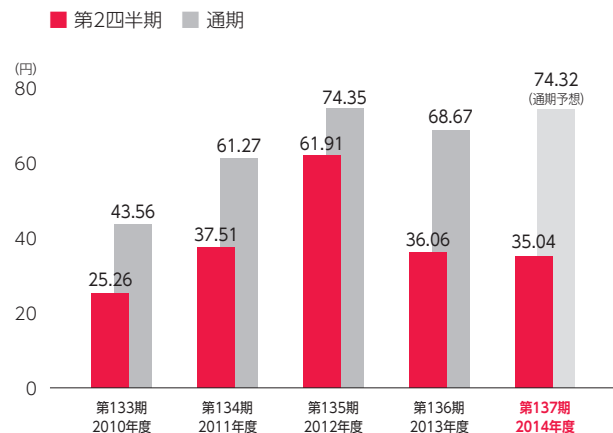
● 財務活動によるキャッシュ・フロー

145億円の支出(前年同期は226億円の支出)となりました。配当金の支払いおよび借入金の返済による支出があったこと等によるものです。

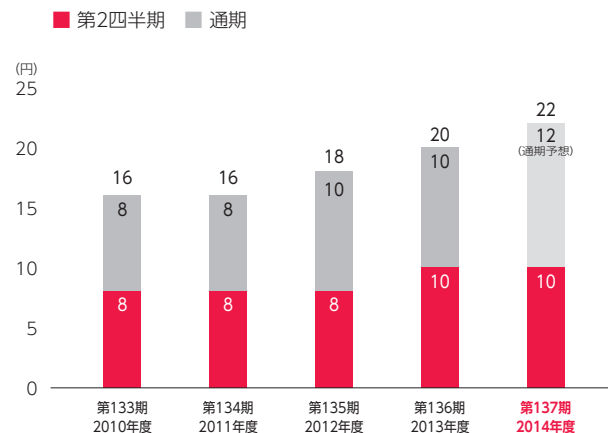
■ 連結損益計算書の概要 (単位：億円)



■ 1株当たり四半期(当期)純利益



■ 配当



*予想数値は、11月6日決算発表時で入手可能な情報に基づくものであり、実際の業績は、事業環境の変動等により、予想と異なることがあります。

*当期より、販促値引等を売上計上時に売上高から控除して計上する会計方針に変更しており、第136期の数値は、変更後の会計方針に基づいて遡及処理を行っております。

「うま味」は世界へ

味の素グループ、世界への挑戦



第4回★ベトナムにおける事業展開



フォー



うま味調味料「味の素」

味の素(株)は、1991年に現ベトナム味の素社を設立し、1993年1月からベトナム南部ドンナイ省ビエンホア工場で、うま味調味料「味の素」の現地生産を開始しました。その後、風味調味料「Aji-ngon^{アジゴン}」、マヨネーズ「Aji-mayo^{アジマヨ}」、ベトナム醤油「PhuSi^{フジ}」、メニュー用調味料「Aji-Quick^{アジクイック}」、粉末飲料「Birdy^{バーディ}」3 in 1 など^{スリーインワン}などを発売、順調に事業を拡大し、味の素グループの中核を担う事業拠点に成長しました。

現在、ベトナム全土に4支店、59営業所、5物流センターを展開し、2,500以上の市場、数十万店の小売店に製品をお届けする販売網を独自に確立、ベトナムにおける総合食品メーカーとして、ベトナムの皆様にご信頼され、愛される製品を提供し続けています。



首都	ハノイ
面積	32万9,241km ²
人口	9,170万人 (2013年)
通貨	ドン
名目GDP	1,700億ドル (2013年)

学校給食プロジェクト

ベトナムでは、都市部を除く地域で学校給食が提供できていない小学校が多くあります。また、給食が提供されている都市部でも、調理スタッフの栄養に関する知識や情報の不足などにより、児童の成長に見合った適切な給食メニューを提供できていないのが現状です。

そこで、ベトナム味の素社は、2012年から教育訓練省、ベトナム国立栄養研究所、地域行政と連携し「学校給食プロジェクト」を5カ年計画で開始しています。本プロジェクトでは、日本式スタイルの学校給食の普及、必要なカロリーや栄養素に基づく献立メニューの充実を図り、児童の食生活・栄養環境の改善を進めています。現在、ベトナム味の素社が開発した献立メニューを、ホーチミン市、ダナン市にある約450の小学校に配布すると同時に、児童に対する栄養・食育教育のサポート、学校関係者に対する衛生的な調理設備の設置や調理作業の改善指導も行っています。このプロジェクトが契機となって、今後、ベトナム全土に質の高い学校給食が普及することを目指しています。



学校で給食を食べる児童

TOPICS 風味調味料「Aji-ngon®」

ベトナムでは、家庭や食堂、レストランで、豚や鶏などから料理の「だし」をとっています。風味調味料「Aji-ngon®」は、この豚や鶏の「だし」が簡単に再現できる画期的な調味料として、2000年に発売されました。その後、スープから炒め物、素材の下味付けに至るま



ロンタン工場の外観

で幅広くお使いいただける、ベトナムの食文化に根ざしたヒット商品となり、現在も年率二桁成長を

継続、トップシェアを獲得しています。さらに、2013年には「Aji-ngon®」用の高品質な肉エキス抽出技術を導入、シェフに学んだ「だし」のとり方を自社ロンタン工場で忠実に再現し、味、風味がより一層本格的になりました。ベトナム味の素社は、この新しい「Aji-ngon®」で風味調味料市場での圧倒的なNo.1を目指します。



風味調味料「Aji-ngon®」



会社概要 (2014年9月30日現在)

会社の概要

商号 味の素株式会社
 本社 〒104-8315
 東京都中央区京橋一丁目15番1号
 創業年月日 1909年(明治42年) 5月20日
 設立年月日 1925年(大正14年) 12月17日
 資本金 79,863,797,685円
 ホームページアドレス <http://www.ajinomoto.com/>

株式の状況

発行可能株式総数 1,000,000,000株
 発行済株式の総数 594,470,654株
 単元株式数 1,000株
 株主数 54,775名

取締役・監査役

*1 取締役会長		山口 範 雄
*1 取締役社長	最高経営責任者	伊藤 雅 俊
*1 取締役	副社長執行役員	國本 裕
取締役	専務執行役員	岩本 保
取締役	専務執行役員	五十嵐 弘 司
取締役	常務執行役員	大野 弘 道
取締役	常務執行役員	高藤 悦 弘
取締役	常務執行役員	品田 英 明

株主メモ

事業年度 4月1日から翌年3月31日まで
 定時株主総会 6月
 株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
 特別口座の口座管理機関
 同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
 〒137-8081
 東京都江東区東砂七丁目10番11号
 TEL 0120-232-711 (フリーダイヤル)
 上場証券取引所 東京証券取引所
 公告の方法 東京都において発行する日本経済新聞に掲載する方法による
 配当支払株主確定日 3月31日(期末配当)
 9月30日(中間配当)
 証券コード番号 2802

取締役 常務執行役員	木村 毅
取締役 常務執行役員	西井 孝 明
取締役 常務執行役員	柄尾 雅 也
取締役 常務執行役員	福士 博 司
取締役	長 町 隆
*2 取締役	橘・フクシマ・咲江
*2 取締役	齋藤 泰 雄

常勤監査役	赤坂 寧
常勤監査役	田中 静 夫
*3 監査役	佐藤 りえ子
*3 監査役	塚原 雅 人
*3 監査役	藤村 潔

*1 代表取締役 *2 社外取締役 *3 社外監査役

味の素株式会社

〒104-8315 東京都中央区京橋1-15-1
<http://www.ajinomoto.com/>

この冊子に関するお問い合わせ先 TEL 03-5250-8245(法務部)



見やすいユニバーサルデザイン
 フォントを採用しています。



環境に配慮したFSC®認証紙と植物油インキを使用しています。

